説　教　　第３アドベント聖日礼拝　　北浜チャーチ

黒田　禎一郎

２０２３年１２月１７日（日）

主　　題：「力の限り声をあげよ」

—このお方を見よ！—

テキスト：イザヤ４０：９－１１

はじめに

・おはようございます。

今日、私たちは第３アドベント礼拝を迎えています。

年末になると、ヘンデルが作曲した「メサイア」がよく演奏されます。この「メサイア」は、キリストの降誕、受難、復活の三部からなるオラトリオですが、「**慰めよ。慰めよ。**」と歌いだし、イザヤ書４０章のはじめから取られた歌詞が次々に歌われています。年老いたヘンデルにとって、慰めの言葉となりました。その感動とともに作曲された歌が、慰めの音楽となっています。

・預言者イザヤは壮大なスケールで、歴史に介入された神のメッセージを届けています。それは、**神のマスタープラン**です。イザヤ書４０章は、第二イザヤと呼ばれています（第三イザヤは 56～66 章）。（一般的に、イザヤ書は 3 部構成になっていると、考えるのが定説となっています。）

・ところで 40 章の初めは、すばらしい呼びかけで始まっています。

40:1　「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。

——あなたがたの神は仰せられる——

40:2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを【主】の手から受けている、と。」

・イスラエルの民に「慰めよ。慰めよ。」と繰り返される呼びかけは、これが切迫した呼びかけであった事が分かります。それはイスラエルの民が捕囚の中で、次第に神から離れ、頑なに心を閉ざしていた時でした。あきらめの中に、失望の中に、身を委ねつつあった状況の時でした。

・切迫した呼びかけの中で、今ここで、あきらめや迷いから目覚めなければ、次の時には遅すぎることになるという状況でした。　皆さん。イスラエルには幸いな希望があります。

・最初の２節に、私は第二イザヤのテーマがあると思います。

⇒「**慰めよ。**」です。

天において神の命令を受けた天使が、一人の預言者に向かい「わたしの民を慰

めよ。と呼びかけられました。主はここで、３つのこと語っておられます。

① その労苦は終わった：エルサレムの苦しみや悩みの時を示す

② その咎は償われた：咎に対する「犠牲のいけにえ」が捧げられることを示す

③ 神は２倍の祝福を下さった：

・「2 倍」とは、文字通りの 2 倍ということではありません。「十分に」ということです。すなわち、エルサレムがその罪のために十分のさばきを受けて後、十分の祝福を受けるという意味です。今日は、「慰めよ」と御使いが伝えた言葉から、神の御声を聞きたいと願います。

・テキスト（9～11 節）のキーワードは、「見よ」という言葉です。

「見よ」とは、人の関心、注意、注目を促す言葉です。では、イザヤはいったい何を「見よ」と言っているでしょうか？　　３点。

大切なポイント

1．存在の主である神を「見よ」

40:9　声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」

「見よ」という言葉を受ける方は、⇒　神です（歴史の中に存在する神）。

・このメッセージは、イスラエルの民に語られました。あなたがたの神とは、彼らの歴史の中に現れた神のことです。　たとえば、神は父祖アブラハムと片務契約を結ばれ、永遠の「祝福の約束」を与えられました。神は、エジプトで捕らわれ人であり、奴隷の身であったイスラエル人を解放してくださったお方です。

・さらに、乳と蜜の流れる約束の地（カナン）へ、導かれた神です。
神は幾世代にもわたり預言者を通し、神の権威と計画を知らせてこられました。すなわち、イスラエルの神は歴史の中に存在し、生きて働かれたお方です。

・皆さん。歴史の中に介入された方は他に存在するでしょうか。
歴史という時間を支配するお方は、創造神です。ですからイザヤは、その神を「見よ」と言いました。そこで注目したい点は、神はこれら全てのことを「ことば」で実行されたことです。

2．大能の主である神を「見よ」

・創世記を開くと、はじめに「光よ。あれ。」とことばで始まっています。

1:3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。

1:4 神は光を良しと見られた。神は光と闇を分けられた。

1:5 神は光を昼と名づけ、闇を夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。

・さらに二日目には、次のように言われました。

1:6 神は仰せられた。「大空よ、水の真っただ中にあれ。水と水の間を分けるものとなれ。」

1:7 神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。

・イザヤが「見よ」と言ったお方は、イスラエルの神である創造神です。

40:10 見よ。【神】である主は力をもって来られ、その御腕で統べ治める。見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。

・イザヤは次のように言いました。イザヤ40:8

40:8 草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

「立つ」という言葉は、「変わらない」、「続く」という意味です。

・世の中の生あるものは、常に移り代わります。どんなものでも変化します。皆さん！　最も変わりやすいのは、人が語る言葉ではありませんか。私たちは約束しても、約束を守り通すことができないのです。それが人間です。

・しかし、神は絶対に変わらないお方です。神が語られたことば、変わりません。ですから私たちはここに、信頼を置くことができます。神は預言のことばの中に、信頼性をおいています。預言は、神がどんなお方か、その本質を明確に示しています。メシアであるイエスの誕生は、まさしくそれを証明しています。

・イエスの誕生（クリスマス）は、歴史的事実です。イエスの生涯、十字架などははっきりしています。しかし、信じない人は多くいます。神の民であるイスラエルも、そうです。なぜでしょうか・・・・？

⇒それは御霊の光に照らされて、はじめて真実が分かるからです

・１コリント１２章

12:3 また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。

・ですから、神を知ることは、「神のわざ」です。私たちの信頼、信仰の基は、神のことばである聖書です。イザヤは「存在の主である神」を、そして「大能の主である神」を、「見よ」と言いました。さらにもう一つあります。

３．慈しみの主である神を「見よ」

１）報いと報酬は主の前にある

40:10 見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の御前にある。

・「報い」と「報酬」は同義語です。報い（報酬）は主とともにあり、主の前にある、と言いました。それはどんな意味でしょうか？
⇒　言葉と行動のすべては、神の前に置かれている。
・しかし「報い」（報酬）には、もう一つ「償い」という意味もあります。
22:14 人が隣人から家畜を借り、それが負傷するか死ぬかして、その持ち主が一緒にいなかった場合は、必ず償いをしなければならない。
出エジプト記
・本来、私たちは罪に対して、責任を取らなければならない立場です。
責任をとるということは　⇒　「償う」ことです
しかし神ご自身が、ご自分の義に対する償いを用意しておられました。神は御子イエスによって、「償い」をしてくださいました。イザヤは次のように預言しました。
53:5 しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。
・何ということでしょうか？イエスの誕生は、私たちが負わねばならない咎のための「償い」でありました。ここに福音があるのです。そして更に、イエスはどんなお方かが語られています。

2）約束の主

40:11 主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、懐に抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。
・イザヤは、神は贖われた民を導く「羊飼い」である、と語りました。
「贖われた民」　⇒　買い取られた者という意味です。しかし、土地や奴隷の買い戻しのように、お金によるのではありません。お金で買い戻せない者を、神は「御血」によって買い戻されました。イエスという、神の小羊による買戻しです。　詩篇 23 篇
23:1 【主】は私の羊飼い。私は乏しいことがありません。
23:2 主は私を緑の牧場に伏させいこいのみぎわに伴われます。
23:3 主は私のたましいを生き返らせ御名のゆえに私を義の道に導かれます。
・力強い主は、心細やかでやさしい羊飼いです。迷いやすい羊を「集め」、「ふところに抱」いてくださるのです。ここに良き羊飼いとしての力とともに、羊飼いとしての愛が、神のわざとして現わされています。
・やがて神の時が満ち、良き羊飼いであるお方が来臨されました。そして、十字架による贖いのわざを完了しました。ヨハネの福音書
10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。

10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。

・皆さん。私たちは、「慈しみの主である神」に、どう応答すべきでしょうか。それは、むつかしいことではありません。

イザヤが「**見よ！**」と語ったように、創造神を「**見る**」ことです。すべてはそこから始まります。素直な心で、正直な心をもって、神に目を向けることです。

・イスラエルの民は捕囚の中で、次第に神から離れ、心を頑なに閉ざしていました。あきらめの中に、身を委ねつつあった状況でした。しかし神は天使を通し、イスラエルに慰め、約束、祝福を語られました。聖書はこう語っています。　マタイの福音書

11:28 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。

｛例　　話｝　　「分かれ道」

・アメリカのある所に、2 人の少年がいました。彼らは悪い場所（未成年者に禁じられた）へ、遊びに行こうと話し合っていました。彼らがある教会の前を通ると、大きな看板に「罪の支払う報酬は死である」と書かれていました。

・一人の少年は言いました：「オイ、君、もう帰ろうよ。あの看板を読んだかい。“罪の支払う報酬は死である！”と書かれているではないか。悪いことをやっていると、あの言葉どおりになるかも知れない。」

・するともう一人の少年が言いました：「なんだって。折角ここまでやって来たのに、このまま帰るようではいけない。あんな看板の言葉に恐がっている君は、臆病者だ。意気地なしだ。さあ、行こう！」

・しかし、彼は動こうとせず、はっきりと言いました：「僕は行かない。」・・・・。「それでは、勝ってにしなよ。僕は一人でも行くからな。」そして二人は、西と東に背を向け合って別れました。

・まっすぐ家に帰った少年は、自分の部屋に入り、神に祈りました。「神様、今までの悪かったことをお赦しください。」彼は自分の罪を悔い改めました。その後、少年はひたすら勉学に励み、神への信仰も成長し、立派な人物となった。後年、彼は米国大統領にまで上りつめた。彼の名は、クリーブランド大統領でした。

・さて、もう一方の少年はどうなったでしょうか？　彼は自分で選んだ罪の道、

歓楽の道を歩き続け、とうとう殺人事件まで起こしてしまいました。ある日、クリーブランドが大統領になったというニュースが、国内に知れ渡りました。「号外！　号外！」と言って配られた一枚のニュースが、暗い刑務所にまで届きました。

・そこには死刑判決を受け、執行日を待つのみの死刑囚がいました。その死刑囚は、あのかつての少年でした。彼は「ああ、罪の支払う報酬は死である」と叫んだという。

・若い日のただ一歩の違いで、人生で取り返しがつかない大きな結果となったのです。

＊ 愛する皆さん。私たちはクリスマスを前にしています。神のみことばに正直に、素直に、そして従順になろうではありませんか。

イザヤは、この神を「見よ！」と叫び預言しました。

ま　と　め

主　　題：「力の限り声をあげよ」

—このお方を見よ！—

・神は預言者イザヤを通し、捕囚の中で疲れ、神から離れ、迷いとあきらめの状況にあった民に語られました。１節で「慰めよ。慰めよ。わたしの民を。」と語られました。イスラエルの神は、救い主を送られました。

⇒まことの慰め主です

・神はイザヤを通し、メシアについて預言されました。神は偉大なお方です。ですからイザヤは，「見よ」と語りました。私たちは何を『見る』べきでしょうか。イザヤは歌いました。

１．存在の主である神を「**見よ**」

２．大能の主である神を「**見よ**」

３．慈しみの主である神を「**見よ**」

・皆さん！私たちは、今何を見ているでしょうか・・・・？

「贖い」のために、来てくださったイエスを見ているでしょうか？

「償い」のために来てくださったイエスを見ているでしょうか？

＊ God bless you!